

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 104

2011年10月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



「雑草」と呼ばれる

植物について考える

里山自然観察隊

平塚

芳雄

稲穂と水田一年草広葉雑草コナギ

里山自然観察隊では毎月、環境省生物多様性センターが推進している「モニタリング10000里地調査（植物相）」の基準に従って身近な植物の植生調査を実施しています。

その調査対象の多くが「雑草」と呼ばれる植物たちです。高等植物（シダ、裸子、被子植物など）を人との関わり方で栽培植物、雑草、人里植物、野草の四グループに分けると、「雑草」という言葉には人間にとつてあまり役立たない、邪魔な厄介なものというイメージがあります。しかし、「雑草」は「野草」と違い人の生活との関わりの中に存在する一番身近な植物です。雑草のようにこの言葉には遅く粘り強く生きるというようなイメージがありますが、雑草は他の植物との生存競争には弱く、野草などが住まない、人が耕作したり刈ったり踏みつけたりするような所でのみ生存することが出来る植物です。

日本の田んぼや畑の雑草の起源については幾つかの説がありますがどちらにしても古代の昔から人の生活と共に進化してきた植物です。

日本は自然災害大国であると言われる。地震、津波、台風、突風・竜巻、豪雨による洪水、火山の噴火。三月十一日の東日本大震災ではその影響の大きさを思い知らされました。一方、日本のように水に恵まれ草や木が茂り森を伐採してもすぐに樹木が再生してくるような国土は地球上にそんなに多くありません。開発先進国のなかで国土の70%が森林であるような自然に恵まれた国は希です。

この様に日本の自然が私達に都合が良い事だけではない現実を受け入れ、刈っても刈っても生えてくる雑草も厄介なものとしてだけでなく自然の恵みと受け止める意識も必要です。

雑草の働き、グラウンドカバーとして強風時の土ほり防止、大雨時の土砂流出防止、生物が住めない砂漠化の防止、大気温度調整等を考えれば雑草も日本の豊かな自然をつくる一員であると思ひ至ります。生物多様性の視点から雑草の存在を考え、可能な限り人間の管理ではなく自然のシステムにまかせる考え方、方法で雑草に対応していきたいものです。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告

巨木リサーチ2事業報告

平塚 芳雄

今年度の樹木ガイド活動状況について

巨木リサーチ2プロジェクトでは今年度の活動として、「樹木管理」、「研修」、「牛久里山樹木ハンドブックの編集」と共に、「樹木ガイド」（市の樹木探訪会）を計画し推進しています。ガイド活動は平成二十一年度三回、同二十二年度二回実施してきたのですが、今年度は「巨木リサーチ事業フェーズ2」が平成二十五年三月まで延長されたことに伴い継続実施するものです。ガイド内容としては、これまでの巨木を中心として巨木のある地点を点々と巡って案内する形から特定の地域を定め、巨木だけでなく他の周辺樹木を含め、自然環境全体を徒歩で案内する内容に変えて行うことにしています。

具体的な計画として今年度第一回は十月二日、城中町地域の自然（巨木と周辺樹木等）と歴史（貝塚・古墳・城址等）、第二回は十二月四日、久野町・桂町地域における神社・仏閣、遺跡等を背景とした樹木、その紅葉風景等を訪ねることにしています。既に、事前調査も城中町については五月一日、九月四日の二回実施しており、久野町・桂町地域についても十一月六日に行う予定です。

更に、次年度ガイドコースの予備調査も樹木研修、牛久里山樹木ハンドブックに掲載する樹木の写真撮影を兼ね既に、五月一日、七月三日、七月二十三日の三回実施し、来年三月四日にも予定しています。芽吹き、開花、結実、紅葉の時期を逸しないよう気配りながらの撮影です。この予備調査はガイド担当メンバーの樹木に関する知識のレベルアップに大いに役立つことでしょう。

現在、第一回樹木ガイドの準備に追われています。案内対象地域である城中町は縄文時代からの先人の活動の歴史の痕跡が多く残る所で貝塚や古墳、城址

の他にも河童や牛久沼に関わる伝説等興味ある案内すべき材料が豊富です。ガイドコースを巡っての樹木の研修、参加者の関心に応えられる配布資料の作成等に腐心しています。又、これまでの巨木調査の成果である平成二十三年三月に刊行した「牛久の巨木」もぜひ活用したいと考えています。

現在のガイドグループは九名。写真グループ三名と共に当プロジェクトが行ってきた巨木等の調査結果を広く市民に知らせる活動を通じて郷土の自然環境保全に貢献できるように今年度の樹木ガイド活動を全員で進めていきたと思っています。



牛久城址曲輪(クルワ)の土墨上の
植生観察調査 戸塚 11.5.1



あやめ受託事業報告

佐野 滋

牛久観光アヤメ園・花菖蒲以外にも見所が！

はや九月残暑が厳しいとはいえ一時期の猛烈の暑さは影を潜めてきました。食欲の秋到来です。お腹の周りが気になる季節になりました。このアヤメ園は現在十五人で今年度は株の仕分けとそれに伴う畝作り又、除草との戦いでメンバー一丸となって来年のアヤメ、菖蒲の満開に向け奮闘努力の最中です。さて、このアヤメ園につきましては、このコーナーで

諸先輩が記していただきますので今回はアヤマ園周辺の見どころ何箇所か案内します。比較的歴史あるお寺二軒を紹介いたします。

先ず東林寺、東林寺の鐘銘によれば天正年中一五七三―一五九一東林寺城主岡見氏属将は下妻城主多賀谷重軽の侵攻を受け、しばしば対戦したがついに滅亡の悲運にあったとあり、この結果 東林寺城は廃城となり岡見氏滅亡後由良氏が牛久城主となり、新地東林寺旧殿を復旧した。

次は正源寺曹洞宗の寺で、開基は天和二年（一六八二）の頃のようにすが定かではない。鐘樓門や総櫓造りの観音堂ともりにりっぱである。現在の建物は、鉄筋のコンクリート造りであるが、前の建物を解体した際の棟札などから、本堂は天保十二年（一八四一年）の建立であったことがわかる。また小川芋銭は日記にこの寺のことを書いています。このほか牛久城跡、城中貝塚、小川芋銭邸、など観るところがあり自然と歴史を楽しんでください。

さて話をアヤマ園に戻します。アヤマ園は季節を通じて楽しめます、春は桜から始まり秋の彼岸花まで楽しめます、今年の彼岸花はたぶん、二千本位に増え昨年以上に鮮やかに咲くことが予想されます。

更にこの園内は農薬や除草剤など全く使用していない為、昆虫類、野草類などが多く生息していて、私たちのメンバーにはこれらに大変詳しい人がいます。



作業中でもかまいませんので声を掛けてください。分ける範囲で答えさせて頂きます。首都圏に近い所ほど自然環境が厳しい中、この牛久沼周辺はまだまだ自然が残っています、最近の現象ですが桜の葉が大変多く落ちてきています。多分、来年の開花に備えてかと思えます、季節の移り変わりが眼に見えてきました。今年には新メンバー二人が加わり、更にパワーアップ来年のアヤマ満開にそなえ一同頑張ります。一人でも多い来訪者をお待ちしております。



雑木林応援隊

本多 昭子

「草木染め」 公開講座

市報八月十五日号に公募掲載。

実施日は八月二十二日 参加人数は二十人 この公開講座を楽しみに待ったりピータが増え、今年で三回目」という数人の方も集いました。

応援隊々長の挨拶で始まり、草木染めの概要の説明があり、実践の指導は女性隊員で進められました。



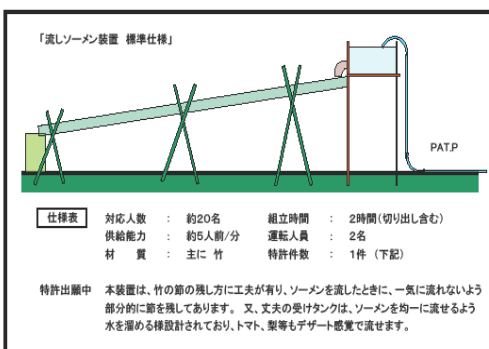
草木染めに参加の皆さん

染色の原料は、藍の生葉(なまば)（畑隊のお世話で成育）、ビワの葉、マリーゴールド、アカネ、シコンの五種 染める布は絹のストールと綿のハンカチの二品を準備。前年の作品に重ね染めもでき、いろいろな楽しみ方を体験できました。媒染剤によって仕上り色の違いにはビックリでした。綺麗なあかねに木醋鉄を使うとなんとも地味な灰色。ビワの葉は石灰では茶系色に染まり、木醋鉄を使ったものは灰色に変わってしまいました。



流しソーマンに舌鼓

昼食はこれまた楽しい、皆で流しソーマンとなりました。商品化できるような素晴らしい装置を考案しての、ソーメンの味も格別なものでも全員満足に味わうことができました。



自慢の流しソーマン装置



親子農業体験講座
一般参加者 八代 居恵

心配ではあるけれど

残暑も日ごと和らぎ、初秋の季節となりました。八月は草取りとそばの種まきということでしたが、我が家は草取りには参加できず、そばの種まきの日には急遽話し合いに変更になってしまいました、というのも「観察の森」の放射能の測定結果が公表され、場所によっては心配な値がでてしまったということです。ここで代わりにした方がいいという意見や、心配だけれども続けたいという意見が出て、農業体験継続の危機となりました。

私は突然のことにとらわれないのか、ただ呆然とするしかありませんでした。四月から楽しくやってきて、悔しい気持はみな同じはずです。話し合いの結果、軍手着用や手洗いの徹底で続けていく方向になり、その日に予定していた種まきは次週に延期となりました。延期日は幼稚園の行事と重なってしま



収穫された野菜に喜ぶ子どもたち

まい、また参加できませんでしたが、なんとか続けていけることとなり、心配もありませんが今後秋に向けて収穫を楽しみにしたいと思います。また、放射能の値が今後下がって来て、来年も再来年も



この農業体験講座が続いてくれることを祈るばかりです。

我が家は主人がサービスマスターで、土日はまったく家に居ません。そんな中、土曜日に参加できる親子農業体験を見つけ、今年から初めて母子で参加させていただきました。上の子は六歳の男の子、下の子は二歳の女の子。農業体験に来ると、上に子は同じ頃の子がたくさんいて畑にはバツタやカエルが現れて大喜び、その上別のファミリーのお父さんが遊んでくれるので、土日にお父さんがいない我が家の子供達にとって別の意味でも毎回楽しいようです。

下の子はまだわけわからず来ている感じですが、スコップで畑を掘るだけで、草を一本とるだけで目を輝かせています。昔自分が祖父の畑でよく遊んでいたもので、子供たちの笑顔がその頃を思い出させてくれます。

幼稚園では芋ほりなどの「収穫」は体験させてくられても、自分で苗から植える「育てる」体験は初めてなので、子供たちにとって本当にいい経験なっていると思います。6月に採った梅の実で作った梅ジュースはあつという間に飲みほし、7月のじゃがいも掘りで持ち帰ったじゃがいもを、カレーや煮物にする美味しくってたくさん食べてくれました。

これからの秋の収穫も、なにを作るのか親子で考えるのもいいコミュニケーションになりそうです。



里山自然観察隊
本田 寛

植物観察会と

モニタリング1000里地調査を実施

今回は九月に実施した今年度第二回目の植物観察会と今年度六回目になるモニタリング1000里地調査について報告します。植物観察会は、去る九月十日(土)に「湿地の植物を見る」をテーマに実施。

当日は快晴三十度を超える暑さ。参加者八名。観察隊以外の参加は四名。市内の若者一名も初参加。植物に詳しい松田さんも参加されたので解説をお願いした。午前九時過ぎ牛久自然観察の森駐車場沿いの林縁から調査を開始。梅林、杉林を抜け県道を横断して農道に入り柏田の湿地に向かった。道々、開花している植物を主に観察し約一時間十五分後に現地に到着。

ここ柏田の湿地は毎年この時期に調査を行っている場所。年々乾燥化が進んでいたが、今年は北側から東側にかけて幅約六十センチ、深さ一メートル程度の三面張りコンクリート製の排水路が整備され、湿地内にあった小さな流れも途絶えていた。

湿地の三分の一は除草剤によるものか枯れた植物で占められ、残りにミソバ、アキノウナギツカミが生い茂り、その中



観察会における実物での解説

に草丈の高いイヌホタルイヤイヌビエが見られた。キクモ、アゼナ、ミズニラ、ヒメクグ等の小さな湿地植物も僅かに確認できた。

帰りは水田の畦道、小野川の堤防、林縁が東側に続く農道、杉林内を観察しながら歩く。稲刈りが終わった水田で希少植物のヒメミノハギを発見、類似種で帰化植物のホソバミノハギも確認。今回、松田さんの参加で植物名の同定も素早くでき、クモやチョウ等の昆虫についての解説も聞いた。約百十種の草本を確認、予定より早く十二時前に観察の森駐車場に無事帰着。



モニタリング1000里地調査(植物相)は九月十三日(火)に実施。当日は晴れ三十度を超える真夏日。参加者は四名。予定時刻の午前八時半に得月院前駐車場に集合。最初、渡辺泰さんからカヤツリグサ科とその属につきテンツキ、ヒデリコなどの実物を使って教えて頂く。牛久市では六属六三種のカヤツリグサ科草本が確認されているとのこと。九時に調査を開始。道際ではイノコヅチ、ダンドボロギク等直立している植物やカラスウリ、ヤブガラシ、マメアサガオ、カナムグラ等ツル性植物が目立つ。水田の畦道ではヒデリコが、水際には黄色い花をつけたヒレタゴボウが際立。当日は参加者の都合で十二時で観察活動を切り上げ、残りの区間は後日行うことにした。

うしくの里山フォトコンテスト
実行行委員会事務局 阿部 幸浩

牛久の魅力ある里山の景観やそこに暮らす生き物たち、また農林業などの人々の生活や自然とのふれ合いなど、身近な里山の環境に対する関心を高め、豊かな里山の環境作りに取り組みきっかけとなるような写真と撮影時の思いを募集します。(応募締切十一月二十日) 会員のみならずも参加できますので、ご応募ください。



詳しくは、ホームページ または観察の森に置いてあるチラシをご覧ください。



運営委員会からのお知らせ

バザーの品物を寄付してください

十月二十三日に開催されます「うしくみらいエコフェスタ」で本会主催のバザーを開催します。ご家庭で不用となつて居る日用品などを寄付してください。収益は会の運営資金にあてさせていただきますので、ご協力をよろしく願います。

収集場所：牛久自然観察の森
募集期間：十月一日から二十二日まで



私とうしく里山の会の
関わり

第四回目 副代表理事 石神 良三

園長就任時の思い出。

私の牛久自然観察の森の一員としてのスタートは、平成十四年の四月でした。第二代園長(井上正浩氏)からの引き継ぎの中で、今でも鮮明に思い出すのが、観察の森友の会設立に関する経過の説明でした。この時が、現在のうしく里山の会との関わりの始まりとなりました。

前号で、阿部幸浩(副代表理事)さんがその経過について詳しくふれられておりますが、友の会準備会設立を控えての代表者による協議が進行中でした。私自身、牛久自然観察の森の運営にとって、地元の方々は勿論のこと多くの市民に愛され、支援されるのが不可欠と考えていました。友の会設立に関わるボランティア(個人・団体)定期利用団体の方々には、その中核としての役割を担って欲しいという願いがありましたので、最大の関心事でもありました。

うしく里山の会の誕生。

平成十四年十一月に入りそれまでの議論を踏まえた新たな発想から、牛久周辺の里山保全活動をも視野に入れた新たな





団体「うしく里山の会」の設立準備会がスタートし、翌年四月に誕生しました。会発足後も、ボランティア、利用団体の皆さんには、従前以上のご支援を頂き現在に至っております。

「牛久周辺の、自然と人が調和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐ」ことを目的とする、うしく里山の会のミッションは、牛久自然観察の森にも求められられている共通のもでもあり、当時を振り返ると、力強いパートナーの誕生に安堵したことを忘れることができません。

二足の草鞋を履いて思うこと。
牛久自然観察の森の仕事と、うしく里山の会の活動という俗に二足の草鞋を履いているわけですが、これまで、履きかえるという意識を持ったことは一度もありません。私の場合、うしく里山の会での主な活動内容は、牛久自然観察の森に隣接する里山「みどりの保全区」の手入れ、各種団体等の要請に応える自然観察の出前講座ですが、いずれも牛久自然観察の森の、森の活動の延長線上に位置するものです。

うしく里山の会も、牛久自然観察の森の指定管理者としてその運営に携わって六年目に入りました。私たち職員にとっては、牛久自然観察の森設立当初の理念と、目的の沿った事業計画と、特色ある創意に満ちた活動が展開できることが何よりの喜びであり、そのために日々研鑽に励んでいるところです。これからもうしく里山の会の皆様のご理解とご支援をエネルギーとして、全国自然観察の森をリードしていきたいと思います。



さとやまセミナー報告
坂弘毅

「江戸しぐさは二十一世紀の幸せマナー」
講師 江戸しぐさ・江戸文化研究会主宰
外岡 仁氏

茨城大学生涯教育研究センター
長谷川 幸介准教授

日時 平成二十三年九月四日(9:30~12:00)
場所 ひたち野リフレ四F第一会議室

今回の江戸しぐさは昨年に続き二回目となった。前回はイントロで時間が取られて江戸しぐさの本題に入れなかつたため、今回の講演となった。今回は主題通りの講演となり、大変意義のあるセミナーになった。

特に前半の里山概念、特に文化人類学の見地からのお話しには里山の会の会員として多くの方に聞かせたい内容であった。

里山とは単に農村の集落周辺に広がる「ヤマト」を指すものと考えられていたが、もっと深い里山の定義があった。これは文化人類学という切り口から生まれた定義で、日本人の里山とその生活について認識する機会となった。



講演される外岡先生

講演内容(前半の要旨)

里山の定義として、ムラ・ノラ・ヤマがセットになったものを「里山」と定義付けられていることは周知の通りであるが、ここで、村を「ムラ」と記述するのは次のような背景があった。
村・政治的に把握される単位で町村や行政区単位などである。

ムラ・人びとの暮らしの原点に連なる生活集団・組織を指す。表現を変えれば、ムラは村人の暮らしを保障する器であるとされる。言うことで、「ムラ」を標記するのはこのような背景があった。

そして、村とは、「家群れ」(いえむれ)が語源とされ、家が群れているところ・状態が村というわけである。

したがって、村とは家を単位として構成される社会であって、個人を基点にして考えるものではないことになる。また、村落構造については、家の系譜関係の同族などのタテ型と、家々が地縁的につながるヨコ型の二つに区分される。

このようなムラはどのような領域の中にあるのか、それが図1で示される。

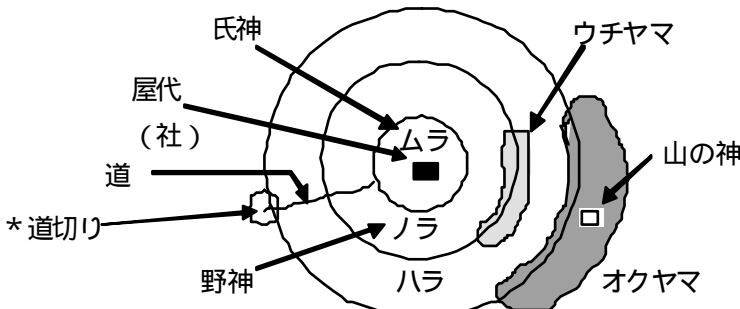


図1 村落の空間構造

中心の円内には「ムラ」が構成され、ムラの外周には「ノラ」（野良）がつくられた。ノラは主に水田であった。畑は連作障害ができるが、水田は永久的に使える。ウチヤマはクヌギ・コナラの雑木林で、薪炭に利用された。そして、外周の一部に「道切り」という場所があるが、ムラの出口（集落の入り口）で、辻などに魔よけのための塚などが設けられた。庚申塚、しめ縄、ザガマタ（利根川流域の習俗）、道祖神などがこれである。三猿がおかれたところもあり、道切りをそつと抜けて行く人に対し、「見ざる・言わざる・聞かざる」という気配りもあつたようである。

そして、ムラの中心に設けられたのは「屋代」であつて、神の仮の社に奥山の神を迎えた。「ハレ」（非日常的）のとき、即ち「祭り」のときに、奥山の神を「屋代」に移し、「ケ」（日常）のときに神を奥山に帰すという風習が長い間続いてきた。

里山文化は以上のような小さな領域の中から生まれ、現在も継承されている。



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

十月の活動日時

七日（金） 午前九時～十一時半

十六日（日）午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前

（予約不要/荒天時は中止）

ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手（長袖、長ズボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当：石神



牛久自然観察の森だより

チーフコーディネータ 齊藤 孝

園内における除染作業にご協力ください

牛久自然観察の森園内において除染作業が本格化した八月以降、一マイクローシールベルト毎時を超えていた地点の除染は概ね終了しました。現在は、来園者の利用頻度が高く線量の値も高い場所から表土の剥ぎ取りや草刈り・落葉の除去等を実施しています。

会員有志による除染作業は、九月の「タヌキの林からコジユケイの林までの園路（土）」に続いて、十月は「十字路からカップ沼橋まで園路（土）」の除染作業を実施します。この園路には「マイクローシールベルト毎時に近い値が測定された場所もあり、表土の剥ぎ取り作業を行いたいと思います。会員の皆様のご協力をお待ちしております。

実施予定日：平成二十三年十月十日（月・祝）

午前九時～正午（雨天中止）

作業内容：環境放射線計による測定（作業前後）

除染作業（落ち葉清掃・土壌剥ぎ）

持ち物：布手袋（軍手等）、長靴、ゴム手袋、

マスク（防塵マスク等）、タオル、

飲み物 服装は長袖長ズボン

土のう袋等作業道具は森で準備

申込み：当日「十字路」集合（予約不要）

身近な樹木 No.7 ヤマウルシ



ウルシ科の落葉小高木（三～八m）で、北海道～九州の山地に分布しています。日当たりを好み、牛久市内でも雑木林の縁などに生育しています。葉は互生し奇数羽状複葉で、秋の紅葉は見事です。雌雄異株 五～六月頃、枝先の葉腋（ようえき）から円錐花序を出し、黄緑色の小花を咲かせます。

果序は垂れ下がり果実には剛毛があります。なお、漆器に用いられ漆（うるし）を採るのには別種のウルシで、原産地は中国からヒマラヤ、古く中国から朝鮮を経て渡来し栽培されたものです。ついでにツタウルシも注目しましょう。ツル性の落葉木で、岩やほかの樹木の幹をはい上がりまです。葉は長い柄をもつ三出複葉で、この紅葉も魅力があります。市内でも雑木林や杉林などで見られます。これらのいずれも樹液にかぶれる成分を含んでいますので、樹皮や葉に触るのは避けた方が無難です。その度合いは個人差が大きいです。

（羽賀正雄）



ヤマウルシの成熟前果実 渡辺 08.6.21

2011年 10月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1 親子農業体験講座 9:00畑
2 巨木サーチ2(特) 8:30ボランティアC	3 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	4 森の畑 9:30畑	5	6 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7 チーム'街路樹20(受) 7:35 JR牛久駅改札 里山保全ボランティア 9:00NC クラフトプロジェクト 13:00NC	8 里山自然観察隊 (モニタリング里地調査) 8:30得月院P
9 雑木林応援隊 9:00ムジナ	10 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	11 (休園日)	12 (休園日)	13 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 森の畑 9:30畑	14	15 親子農業体験講座 9:00畑
16 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC 里山保全ボランティア 13:00NC	17 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	18 森の畑 9:30畑	19	20 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	21 クラフトプロジェクト 13:00NC	22 チーム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
23 雑木林応援隊 9:00炭屋 うしくみらい エコフェスタ	24 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	25 森の畑 9:30畑	26 チーム'街路樹20(受) 9:00 中央図書館 談話室・駐車場奥 (落ち葉掻き)	27 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 会報発送 13:00NC	28	29 親子農業体験講座 9:00畑 巨木サーチ2(特) 8:00市役所構内 チーム'街路樹20 9:00中央図書館 (落ち葉掻き)
30 雑木林応援隊 9:00炭屋	31 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P					

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください。

【凡例】

森:牛久自然観察の森
NC:牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P:牛久自然観察の森駐車場
炭小屋:牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑:牛久自然観察の森駐車場の畑
コジュケイ:牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑:牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ:結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所:牛久市役所本庁舎
ボランティアC:牛久市ボランティア
市民活動センター
中央生涯C:牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園

(休園日):牛久自然観察の森休園日

(受):受託事業

(特):特別事業



編集後記

先日、田んぼ道を歩いていたら、死んだ「タマムシ」を見つけた。死んでいても太陽に照らされて玉虫色という美しい色を発するが、最近では中々目にすることがない。

以前に「タマムシ」の標本を見ていた子どもに「この虫は金持ちだよ。倉も建てるんだ」と間違っ

て説明してしまったのを思い出した。倉を建てるのは「コガネムシ」でした。

黄金虫は金持ちだ。金蔵建てた倉建てた。しかし、ここでいう「コガネムシ」とは「チャバネゴキブリ」のことという説がある。この歌は野口雨情が作詞したが、野口雨情は茨城県の出身でこの故郷ではゴキブリのことをコガネムシと呼んでいた。そしてゴキブリの雌は、昔の財布(きんちやく)のような形の卵の袋を、あっちこちに産み落とし、いくつのお金持ちに見えたという説である。

ということはこの歌は「タマムシ」でも「コガネムシ」でもないらしい。

参考に、「タマムシ」コウチュウ目(甲虫目)タマムシ科 エノキ・ケヤキ・サクラ等の広葉樹を好む。法隆寺の「玉虫厨子」はタマムシの羽根を使用している。タマムシを筆筒に入れておくと着物が増えるという俗説がある。

「コガネムシ」コウチュウ目・コガネムシ科クヌギ・サクラ等の広葉樹を好む。今年是我が家の柿の木の葉が大食べられてしまった。

つい、何日か前まで暑さ厳しいの連続であったが、この編集後記を書いている頃は「今日は何となく寒いね!」「寝ていても布団が一枚欲しいね」今思うとなんだったのかあの暑さは。

季節は、もう十月。十月二十三日は二十四節季の一つ「霜降」になる。先週は富士山にも初冠雪があった。夏から秋・冬への進みは早い。皆さんも体調管理には十分気をつけて下さい。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2011年11月号の発送は10月27日(木)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いたします。